

れていない状況で、まだまだ周知の必要があると考えております。

町社会福祉協議会では、今後、利用者の方やサポーターの登録を増やしていくことで、お手伝いのサービスマニューもどんどん増やしていく計画としています。

町といったしましても、今後さらに活動のPRのバックアップを行っていきたくと考えております。広報紙やケーブルテレビなどでのPRのほか、サロンや各種相談会・訪問、またそこから始まる口コミ、コミュニティを利用して多くの方にこの活動を知っていただき、一つ目には、お困りの方に知ってもらい、ぜひ利用していただく。二つ目には自分がお手伝いできることの登録を呼びかけていく。この二つを中心に、社会参加や生きがいづくりのきっかけとして、地域内での助け合い活動の機運を高め、地域みんなで支え合う社会を目指していきたいと考えております。

ごみの集積場所について

問 支え合いサポーターによるサービスの提供に関連して、高齢者には、不燃ごみの集積場所が少し遠い場所にあると思われるが、集積場所についての改善策はあるのか。

また、ごみ袋が低料金になり

約1年となるが、その状況報告と、介護支援事業として可燃ごみ袋の支給対象者は何名いるのか伺いたい。

答 (各務水道環境課長)

昨年7月に可燃ごみ袋の値下げを行いました。ごみ袋の販売枚数は、平成28年度が16万5570枚、平成29年度が16万1344枚でした。また、ごみの処理量は、平成28年度が114万9560kg、平成29年度が112万600kgと減少しております。これは住民の皆様がごみの分別にご協力してくださっているからだと思っております。

次に、不燃ごみの集積場所につきましまして、各自治会にご協力いただいて、回収を月1回、1箇所ほどでお願いしております。

議員が言われますように集積場所を増やすことは、不燃ごみには大きな物や重い物もあることから、集積場所の広さがある程度必要なこと、可燃ごみのように当日の朝に出してもらったことが難しいこともあるため、留置きできる所となると、町中にご協力いただける場所を探すのはなかなか難しいと思われまします。また、集積場所を増やしますと収集運搬手数料も増加することから、町財政の厳しい中、集積場所を増やすことは難しいと考えますので、できるだけ現状のまま住民の皆様にご協力いた

だければと思っております。

最後に介護支援事業としての可燃ごみ袋(小)支給者の数は、平成28年度が43名、平成29年度が56名となっております。

民生児童委員との連携について

問

生活支援の必要性などについて、民生児童委員との連携強化を今後どのように推進していくのか伺いたい。

答

(藤本健康福祉課長)

民生児童委員(30名)の皆様については、もちろんこうした活動につきましても毎月の定例会等において情報共有し、活動していただいております。多くの研修会やワークショップにも積極的に参加され、自らを高めていただくなど、その活動には頭が下がる思いです。

また、町社会福祉協議会では、民生児童委員の方々とともに、ひとり暮らし等の高齢者を訪問する事業を行っており、昨年度は151件のお宅を訪問されました。こうした事業や機会を通じ、互いに情報共有を深め、「チョコッコ」とについても高齢者の見回りの際に直接会話の中でご紹介していただくなど、さらに連携を密にして取り組んでいきたいと考えております。

現在6つある「チョコッコ」のお手伝いメニューの中で、ごみ出しについては一番利用しやすい、有効なメニューだと思っ

ております。困ってみえる方、また、ぜひお手伝いしたいという方がありましたら、町社会福祉協議会へご一報いただければと思います。



町社会福祉協議会 (福祉センター内)

柘植清貴議員

Q1 ふるさと納税について

基本的な考え方と実績について

問 ふるさと納税制度について、町のアピールポイントや返礼品等について基本的な考え方を伺う。また、昨年度のふるさと納税制度による寄附金の実績とその主な使い道について伺う。

答 (永田地域振興課長)

八百津町は、平成20年度からふるさと納税制度の受付を開始し、平成26年度からインターネットのポータルサイトを利

用した寄附受付を始めました。当初より寄附者へ送る返礼品については、地場産のものを採用しており、全国への特産品PRにつながっています。平成29年度には、町内事業者と地域おこし協力隊、町とのコラボによる新製品の開発も行いました。町としては、ふるさと納税制度をただの寄附金集めではなく、地場産業の発展と町の知名度アップにつなげていく取り組みを実施する体制と、地域の課題解決のためのツールであることが重要との認識で、寄附金の使い道を明確化し、移住促進や地域活性化につなげる寄附の仕組みづくりに取り組んでいます。

平成29年度の受付件数及び金額については、1万2999件、2億803万1101円となりました。

平成29年度の寄附金の使い道については、学童保育事業、防災リーダー養成講座の開催、小中学校の支援員配置、まちなかにぎわい創出事業、杉原ウィークイベント費用など、平成29年度中に実施した多くの事業へ充当させていただきました。

充当事業は、町ホームページ、各種ポータルサイト内で紹介しております。

